

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：12613

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24650125

研究課題名(和文) 一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究

研究課題名(英文) Study on Books of Travel Deposited at the Center of Historical Social Literature, Hitotsubashi University

研究代表者

江夏 由樹 (ENATSU, Yoshiki)

一橋大学・大学院経済学研究科・特任教授

研究者番号：10194002

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本プロジェクトは一橋大学社会科学古典資料センターに所蔵されている18-19世紀における西欧人のアジア旅行記について調査を行い、該当する旅行記の一冊一冊について、その書名、著者名、出版年、旅行者、経路、訪問地、旅行目的、旅行時期、地図・挿絵の有無などを明らかにした。研究期間内に120件(155冊)の資料の調査を完了した。

調査対象となった資料のなかには、例えば、英国が中国に派遣したマカートニー、アマーフト使節に随行したトーマス・スタウトンの著作・訳書などが含まれており、これらは今後の東西交渉史研究の貴重な資料となると考える。

研究成果の概要(英文)：This project made research on the books of travel deposited at the Historical Social Science Literature, Hitotsubashi University. Especially we focused upon the books of travel written by western people who traveled in Asia in the 18-19th centuries. We surveyed the 122 titles (155 copies) of books. We made the lists of names of books, authors, travelers, their destination and route, their purpose, period of travel, and maps and illustrations included there. Among them, we found some books written by Thomas Staunton who visited China twice as a member of the British embassies headed by George Macartney and William Amherst. These books are valuable for the study of Sino-British relations in the 18-19th centuries.

研究分野：東アジア史

キーワード：一橋大学社会科学古典資料センター 西欧人による旅行記 18 - 19世紀 アジア ロシア 中国 トーマス・スタウトン

## 1. 研究開始当初の背景

マルコ・ポーロ『東方見聞録』、間宮林蔵『東鞆地方紀行』をはじめ、優れた旅行記は歴史研究の貴重な史料・情報源である。一つの社会が異文化世界への接触を開始するにあたって、最初の情報提供者となったのはこうした旅行者、冒険家であった。そして、外部世界からの訪問者が見た異文化社会の様子は、しばしば、訪問先となった当該社会の人々には記録できない情報を数多く含んでいる。これまで、歴史学、地理学、民俗学、人類学などの分野では、様々な旅行記を基礎史料・情報源として、独創的な研究を開拓してきた。研究代表者(江夏)も近代の中国東北部(満洲)・シベリア・モンゴルの社会経済史を研究するなかで、大黒屋光太夫、鳥居龍蔵などの残した記録を参照し、これら旅行記の有用性を強く認識してきた。

一橋大学社会科学古典史料センター(以下、「センター」)のメンガー文庫、ギールケ文庫、フランクリン文庫などには、8万冊に及ぶ西洋古典資料が収蔵されている。これまで、経済思想史、社会思想史などの分野においては、これら資料の研究利用が活発であった。他方、センター所蔵資料のなかには西欧人の旅行記も数多く残されている。その多くは、18 - 19世紀にロシア・モンゴル・東アジアを訪問した西欧人が英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などの言語で記したものである。これまで、研究代表者(前センター長)の江夏、研究分担者(センター専門助手)の福島、床井はセンター業務の一環として、これら旅行記の整理に努めてきた。本研究はそうした作業を科研プロジェクトとして発展させ、これら旅行記群を本格的な研究対象としてとらえていくことを目指した。

## 2. 研究の目的

上述のように、センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などには18 - 19世紀の西欧人がロシア・東アジア各地を旅行した際の記録である書物が数多く残されている。

(1) 本研究は、まず、期間内(3年)にそうした旅行記群の全体像を明らかにし、各旅行記について、著者(旅行者)旅行の年代、旅行目的、経路・訪問地、同行者、使用言語、挿絵・地図等の有無、旅行記の概要などについてデータベース化・公表することを目指した。これにより、センター所蔵の旅行記の概要を掌握することを目的とした。

(2) 次に、歴史地理情報として重要性が高い旅行記の選定、その読解を進め、その内容が歴史学、地理学、民俗学などの研究分野に対してどのような貢献をなし得るかを検討し、その成

果をセンター・ホームページ、センター発行の『年報』等で公表することを目指した。また、2年度目以降、旅行記に収められている挿絵・地図等の画像資料のデジタル化を推進し、これを整理してセンター・ホームページに掲載することを目的とした。

上記の課題を遂行することにより、センターが所蔵する旅行記群を広く研究者の利用に供するための基盤構築が行われることを目指した。本研究の進展により、これまであまり着目されてこなかったセンター所蔵旅行記の資料的価値の再認識がなされる可能性が大きい。それにより、一つ一つの旅行記を核として、歴史学、地理学、民俗学などの分野を跨いだ共同研究の組織化の可能性が生まれ、第二の「マルコ・ポーロ研究」、「間宮林蔵研究」といった類の研究が生まれてくることが期待できる。

## 3. 研究の方法

本研究は次のような方法で進めた。

### (1) 旅行記の目録作成

メンガー文庫、フランクリン文庫、一般貴重書に含まれる西欧人のアジア旅行記のうち、英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語で記された資料について調査を進めた。いずれも稀覯資料であり、保存状態の良くないものも含まれていることから、まず、その保存状況の確認から着手した。次に、アルバイト(大学院生)を雇用し、調査対象となった資料一冊一冊について、旅行記の書名、著者、旅行者、旅行の年代、旅行目的、経路・訪問地の詳細、同行者、使用言語、挿絵・地図の有無を明らかにし、内容の要約を付して、目録としてまとめた。同一タイトルの翻訳書も含まれているので、その異同についても調査した。

### (2) 国内における訪問調査

日本国内の各図書館、研究機関に所蔵されている西欧人の記した旅行記の内容を調査し、さらに、資料の電子化を進めている研究機関においてはアーカイビング、電子化の手法等について聞き取り調査を行った。訪問した図書館・研究機関は京都大学附属図書館、京都外国語大学附属図書館、立命館大学アトリサーチセンター、山口県立公文書館、近畿大学図書館、静岡県立図書館、国立国会図書館関西館、関西学院大学図書館である。

### (3) 研究会での報告・意見交換

毎月研究会を開催し、目録作成とは

別に、研究代表者・分担者がそれぞれ読み進めた旅行記の内容を相互に紹介、意見交換を行った。

(4) 研究経過の公表

プロジェクトの進行過程での研究成果は、随時、「一橋大学社会科学古典資料センター年報」などの研究誌、近現代東北アジア地域史研究会等などの学会等で公表した。そうした活動から関係する研究者から貴重な助言を得ることができた。

4. 研究成果

一橋大学社会科学古典資料センターのメンガー文庫、フランクリン文庫、一般貴重書などには数多くの西欧人のアジア旅行記が所蔵されていることを明らかにし、それらが今後の東西交渉史の研究にとって貴重な史料となること、また、一部の資料は国内では本センターの所蔵のみであることを確認した。具体的には次の通りである。

(1) センター所蔵の西欧人旅行記の概要整理

大学院生を雇用し、一冊一冊について該当する旅行記の内容を明らかにした。英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語の資料 120 件(155 冊)の書名、著者、旅行者、旅行の年代、旅行目的、経路・訪問地の詳細、同行者、使用言語、挿絵・地図の有無などを明らかにし、内容の要約を付して、目録としてまとめた。

(2) 個別の資料の分析

調査対象となった資料から、特に稀覯本であり、研究対象として興味深い数点についてその内容を精査した。トーマス・スタウントン、レナード・スタウントンの記した資料  
トーマス・スタウントンは父のレナード・スタウントンとともに、1793 年から 94 年にかけて英国のマカートニーの使節の一員として、同じく 1816 年から 17 年にかけて英国のアマースト使節の随員として中国を訪問した。彼は英国の東インド会社の代表も務めた人物であり、当時、英国を代表するアジア・中国通であった。本センターにはスタウントン親子の記した著作が 4 件(6 冊)、そのドイツ語訳、フランス語訳がそれぞれ 1 件所蔵されていることを明らかにした。また、満洲人のトゥリシェンが清朝康熙帝の命により、ロシアに赴いた際の旅行記である「異域録」を、トーマス・スタウントンが翻訳していた。この英訳本(1821 年)は日本国内では本センターの所蔵を確認できるのみである。このスタウントンの英訳本には彼の解説文が記されている。これらスタウントンの著

作・翻訳書は 18-19 世紀にかけての欧州人の対アジア観を知るうえで貴重な資料であることを明らかにした。ベニョフスキーのアジア・太平洋航海記

ハンガリー人であるベニョフスキーはポーランドの軍隊に入り、1768~69 年のロシアとの戦争で捕虜となったが、1771 年にロシアの軍艦を奪い、カムチャツカから日本、奄美大島、台湾を経て、マカオに航海した人物として知られている。本センターはその航海記の初版本(英語)を有していることを確認した。この資料も今後の東西交渉史研究にとって貴重な材料となる。

(3) 所蔵資料の電子化の準備

他大学図書館・研究機関の経験を参考にしつつ、上記のスタウントンの著作などをデジタル化し、センター・ホームページに掲載する準備を進めた。

(4) 研究成果は「主な発表論文等」に示したように、センターの「年報」、「NEWS LETTER 近現代東北アジア地域史研究会」等の研究誌で公表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

江夏由樹、福島知己、床井啓太郎、科学研究費補助金「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」中間報告(2)、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、35 号、2015、95 - 103

福島知己、R.A.Sayce「1530 年 - 1800 年に印刷された本の植字慣行と印刷地の特定」の検討(1)、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、35 号、2015、104 - 140

江夏由樹、福島知己、床井啓太郎、一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記について、近現代東北アジア地域史研究会 NEWS LETTER、査読無、26 巻、2014、115-118

江夏由樹、福島知己、床井啓太郎、科学研究費補助金「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」中間報告、一橋大学社会科学古典資料センター年報、査読無、34 号、2014、41 - 57

福島知己、共和暦をめぐって、一橋大学  
社会科学古典資料センター年報 33号、  
査読無、2013、24 - 45

〔学会発表〕(計3件)

福島知己、一橋大学社会科学古典資料セ  
ンターによる所蔵資料の電子化公開、ワ  
ークショップ「貴重資料の電子化アーカ  
イブとその公開・利用・外部連携 Digital  
Humanities の新局面」、2014年08月26  
日、一橋大学(東京都、国立市)

江夏由樹、福島知己、床井啓太郎、一橋  
大学社会科学古典資料センター所蔵の旅  
行記について、近現代東北アジア地域史  
研究会、2013年12月14日、日本大学文  
理学部(東京都、世田谷区)

江夏由樹、近代中国的羊毛問題、《東亜論  
壇：明清以来的中国》学術討論会、2012  
年05月19日、復旦大学(中国、上海市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江夏 由樹 (ENATSU, Yoshiki)  
一橋大学・大学院経済学研究科・特任教授  
研究者番号：10194002

(2) 研究分担者

床井 啓太郎 (TOKOI, Keitaro)  
一橋大学・社会科学古典資料センター・助  
手  
研究者番号：20508650

福島 知己 (FUKUSHIMA, Tomomi)  
一橋大学・社会科学古典資料センター・助  
手  
研究者番号：30377064